

航空事故調査報告書

日本航空株式会社所属
ボーイング式747SR-100型JA8143
沖縄島付近上空
昭和58年2月25日

昭和58年5月18日

航空事故調査委員会議決（空委第24号）

委員長	八田桂三
委員	榎本善臣
委員	糸永吉運
委員	小一原正
委員	幸尾治朗

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747SR-100型JA8143は、昭和58年2月25日、同社の定期905便として東京国際空港から那覇空港へ向けて飛行中、16時41分ごろ、沖縄島付近上空の同機内において、旅客1名が病死した。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、昭和58年2月25日17時00分ごろ、運輸大臣より、事故発生の通報を受け、同委員会により当該事故の調査を担当する者として主管調査官が指名された。

1.2.2 調査の実施時期

昭和58年2月26日 事実調査

405001

2及び3 認定した事実及び事実を認定した理由

JA8143は、旅客327名（幼児8名を含む）、乗員15名（運航乗務員3名、客室乗務員12名）が搭乗し、東京国際空港を14時11分離陸し、巡航高度35,000フィートで那覇空港へ向け飛行中、16時05分ごろ客室乗務員は、男性旅客（45歳）の気分が悪くなったのを発見し、座席4席を使用して、同旅客を寝かせた。16時13分ごろ同旅客の容態が急変したので、客室乗務員は、酸素吸入及び人工呼吸を行い、機内放送で医師又は看護婦の助力を求めた。16時20分ごろ助産婦から援助の申し出があり、心臓マッサージ及び人工呼吸が行われた。16時30分ごろ、医師から援助の申し出があったが、その申し出が遅れたのは、1回目の機内放送の時は眠っており、2回目の時はトイレにいたためとのことであった。同医師等により心臓マッサージ及び人工呼吸が継続されたが、16時41分ごろ同機が沖縄島付近上空を飛行中、同医師により同旅客の死亡が確認された。

同機は16時59分那覇空港に着陸した。琉球大学医学部法医学教室により同旅客の解剖が行われたが、直接死因は化膿性肺炎であり、発病から死亡までの期間は約1箇月とのことであった。また、解剖の主要所見は、右胸腔内に膿汁貯留、右肺が膿瘍であった。

なお、同機への搭乗に際して本人から病気に関する申し出は無く、また、飛行中周囲にいた人も客室乗務員が発見するまで気がつかなかった。

4 原 因

本事故は、飛行中旅客が化膿性肺炎により病死したものと認められる。

405002